



北九州市指定有形文化財建造物

# 旧百三十銀行 ギャラリー Gallery 130



## ✦利用案内✦

✦開館時間 10:00～18:00

✦休館日 12月29日から翌年1月3日まで

### ✦施設使用料

区分	使用目的	10時～18時	時間外 (1時間ごとに)
A	美術関係に使用するとき	3,600円	720円
B	美術関係以外の目的のために使用するとき	7,200円	1,440円
C	入館料等を徴収、又は収益を伴う用途に使用するとき	10,800円	2,160円

### ✦申し込み案内

申し込みは、使用月の1年前の1日から（休館日を除く）受け付けます。

申請者が直接ご来館のうえ、使用承認申請書を提出してください。

受付時間は開館日の、午前10時から午後6時までです。

### ✦使用手続

施設使用料を納入されたときに使用承認となりますので、申請書提出と同時に施設使用料を納めていただきます。

### ✦使用料の不返還

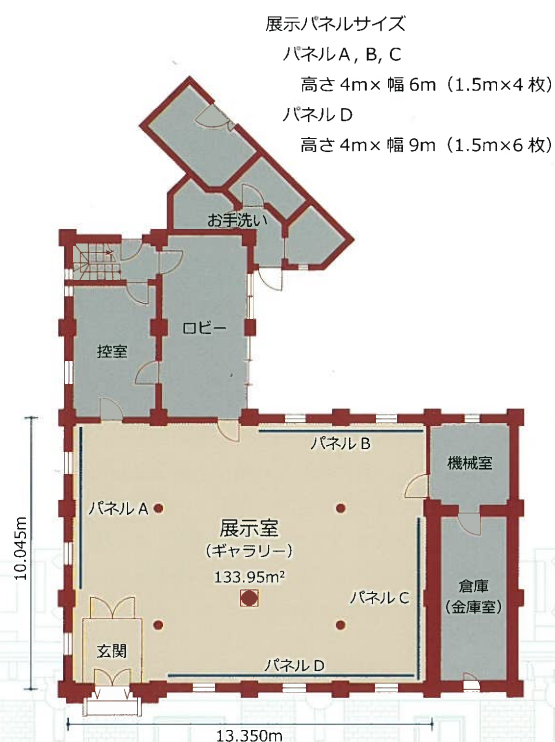
納入された使用料は、条例で定めてある場合の他はお返しいたしません。また、日時の変更も認められません。

### ✦保管責任

ギャラリー内における使用者の物件などについて、火気・盗難などの事故により亡失・損傷した場合には、ギャラリーはその保障等一切の責任を負いません。

## 館内案内

### ◆ 1 階平面図



## アクセス

### ◆ 公共交通

JR : 八幡駅下車 徒歩 10 分

西鉄バス : 尾倉町下車 徒歩 10 分

### ◆ 駐車場

有 15 台



### ◆ 連絡先

〒805-0061 北九州市八幡東区西本町 1-20-2

TEL : 093-661-9130

FAX : 093-661-9133

メールアドレス : info@130gallery.jp

http://www.130gallery.jp

### 指定管理者

### ◆ 名称 : 旧百三十銀行ギャラリー管理運営共同事業体

代表 : 公益財団法人 北九州活性化協議会

所在地 : 北九州市小倉北区古船場 1 番 35 号

北九州市立商工貿易会館 6 階

構成団体 : 公益財団法人 北九州活性化協議会

特定非営利活動法人

北九州市の文化財を守る会



## 旧百三十銀行とは



旧百三十銀行八幡支店は、日本近代建築の先駆者である辰野金吾の主催する辰野・片岡事務所の設計で、大正 4（1915）年に建てられた銀行です。

イギリス風の赤レンガの古典主義建築の流れを受けていますが、当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート造で、タイル貼りで仕上げています。柱の部分にはコンクリートが固まる前に表面を洗い流す「洗い出し」という手法を用い、石造のようなざらついた表情に仕上げています。また、柱頭や玄関廻りの装飾は、幾何学的な図形に処理されていて、大正期のモダンなデザインの特徴をよく表しています。

百三十銀行は、明治 5（1872）年に制定された国立銀行条例に基づいて全国に創立された 153 の国立銀行の一つで、本店は大阪にありました。明治 37（1904）年、若松支店八幡出張所が旧八幡町春の町 5 丁目に開設され、同 39（1906）年に西本町に移転して八幡支店に昇格し、現在の建物が建てられました。

大正 12（1923）年に銀行合併で安田銀行八幡支店となり、戦後、昭和 26（1951）年頃の戦争復興事業で国道 3 号が拡幅されたため、焼け残った建物は現在地まで 80m ほど曳家移転されました。その後、長年北九州市水道局の資材倉庫等として使用されていましたが、昭和 61（1986）年、市の有形文化財に指定されました。平成 4-5（1992-93）年度に復元修理工事が行われ、同年 10 月から「北九州市立旧百三十銀行ギャラリー」として活用されています。

## 建築家 辰野金吾

百三十銀行の設計者である辰野金吾（1854-1919）は、「日本近代建築の父」と言われた建築家です。

現在の佐賀県唐津市に生まれ、工部大学校（現在の東京大学工学部建築学科）第 1 期生として卒業後、イギリスへ官費留学しています。帰国後は工部大学校教授として明治・大正の建築界を主導し、日本銀行本店、東京駅など、



辰野金吾

日本の近代化を象徴する建築作品を手掛けています。

赤レンガの壁に白い石を帯状に入れた「辰野式」と呼ばれるスタイルの作品を多く手がけていますが、新しい動きにも敏感で、戸畑の旧松本健次郎邸ではヨーロッパで流行していたアール・ヌーヴォーをいち早く取り入れています。古典主義の装飾を大胆に簡略化した旧百三十銀行ギャラリーの造形にも、このような辰野のチャレンジ精神が表れていると言えるでしょう。



日本銀行本店  
明治 29（1896）年



東京駅 大正 3（1914）年



旧日本生命福岡支店  
（赤煉瓦文化館）  
明治 29（1896）年



旧松本健次郎邸  
（西日本工業倶楽部）  
明治 44（1911）年



## 西本町の歴史と百三十銀行

現在の閑静な様子からは想像が付きませんが、旧百三十銀行の建つ西本町通りは、建設当時、八幡で最も華やかな市街地でした。

江戸時代、この通りは小倉と長崎を結ぶ長崎街道の一部でした。明治 20（1887）年の地形図からは、旧長崎街道が小さな村々を繋ぐ唯一の幹線道路だったことがわかります。

明治 30（1897）年 2 月、八幡官営製鐵所の建設が決定し、明治 34（1901）年に操業が開始します。このとき、長崎街道の北側に製鐵所の敷地で、西本町通りは製鐵所の南門に続く道となりました。このとき、南門から通りを抜けた先に職工用の前田官舎が建設されたため、西本町は商業地区として発展し始めました。大正初期には前田官舎の南に広大な平野官舎（現在の九州国際大学などを含む地区）が建設されたため、朝には数千人の従業員がこの商店街を通って通勤する壮観な光景が見ものとなりました。

西本町の商店街は、大正 10（1921）年頃には完成されており、昭和 11-14（1936-39）年頃に全盛期を迎えていたと言われていました。大正期に発行された地図を見ると、西本町通りには百三十銀行をはじめとして多くの銀行や商店の名が記されていて、その繁栄ぶりがうかがえます。大正末から昭和初期の絵葉書の古写真には、1-2 階建ての木造の商家建築に交じって、ドームや塔を戴いた、レンガ造やコンクリート造と思われる 3 階建ての建物がいくつも見ら

れ、垢ぬけた西洋風の町並みがつくられつつあったことがわかります。昭和 5（1930）年には通りがスズラン灯で照らされ、昭和 10（1935）年には町全体がネオンで彩られるようになりました。

この風景を一変させたのが、昭和 20（1945）年 8 月 8 日の八幡大空襲です。その前年、西本町通りでは建物疎開が行われ、延焼を防ぐために通りの片側の建物がほとんど取り壊されていましたが、それでも被害を和らげることはできず、この旧百三十銀行をはじめとしたわずかな例外を除き、西本町の建物はほぼ焼失しました。

戦後は、八幡市長守田道隆の主導で、現在の位置に八幡駅を移転し、駅前の大通りを建設するなど、行政による都市計画で復興します。西本町通りには、昭和 26（1951）年に設立された八幡市住宅協会が昭和 29（1954）年に 1 階を店舗、2 階以上を住宅とした本町アパートを建設します。整然とした町並みにはなりましたが、戦前の賑わいが復活することはありませんでした。

旧百三十銀行以外に戦前から残る西本町の建物として、旧八幡授産所がありました。昭和 10（1935）年頃に呉服店として建設された鉄筋コンクリート造の建物で、戦後に戦争未亡人のための授産施設として用いられていましたが、令和元（2019）年、取り壊されて姿を消しました。旧百三十銀行は、西本町の栄華を伝える唯一の生き証人として貴重な存在となっています。



明治 20（1887）年実測の地形図  
丸の位置がその後の百三十銀行



大正 6（1917）年の八幡市地図  
丸の位置が百三十銀行



大正末の百三十銀行



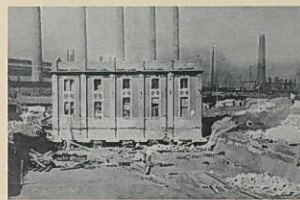
昭和初期の西本町通り  
通りの左側奥に百三十銀行が見える



スズラン灯が並ぶ西本町通り



旧八幡授産所（現存せず）



昭和 26（1951）年頃の曳家



本町アパート